

# 2019年3月期 第2四半期 決算説明会

日本通運株式会社

I. 経営状況		IV. 2019年3月期の業績予想	
A. 2019年3月期 第2四半期決算の概要	P. 1	A. 連結業績予想（修正後）	P. 13
B. 直近5年間の売上高・営業利益の推移	P. 2	B. セグメント別状況（修正後）	P. 14 -
C. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益の推移	P. 3	C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）	P. 17 -
D. 財政状態	P. 4	D. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳（予想）	P. 20
E. キャッシュ・フローの状況	P. 4	E. 2019年3月期予想数値の考え方	P. 21
II. 外部環境の変化およびその他の変動要素		V. 経営計画の進捗状況	
A. 増減要素	P. 5 -	A. 日通グループ経営計画2018 -新・世界日通。-	P. 22
B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳	P. 8	B. 重点戦略の進捗状況	P. 23
III. 2019年3月期 第2四半期業績分析			
A. セグメント別状況	P. 9 -		

2018年10月31日

I. 経営状況							
A. 2019年3月期 第2四半期決算の概要							
1) 概要 (連結) (単位: 億円、%)							
	2019/3期 2Q累計実績 ①	2018/3期 2Q累計実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	2Q累計予想 (4月27日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	達成率 ⑦=①÷⑤ ×100
売上高	10,403	9,561	842	8.8	10,100	303	103.0
営業利益	340	322	17	5.6	330	10	103.1
経常利益	377	344	33	9.6	350	27	108.0
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	234	215	18	8.7	220	14	106.6

(億円未満切捨て)

2) 連結経営指標 ( ) は前年同期実績  
 売上高営業利益率 3.3% (3.4%)  
 売上高経常利益率 3.6% (3.6%)  
 【ご参考】 ( ) は前年度実績  
 ROA 3.0% (0.4%)  
 ROE 8.0% (1.2%)  
 ※ 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は前連結会計年度末と当期連結会計期間の平均値を使用し算出しております。

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved. 2019年3月期 第2四半期決算説明会資料 1

- ・第2四半期累計として、連結の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益とも、過去最高。
- ・上期で初の売上高1兆円を達成。
- ・4月27日に発表した連結業績予想数値との比較でも、それぞれプラス。

◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

- ・国内外ともに、景気の回復基調は続き、荷動きは、おおむね堅調に推移。

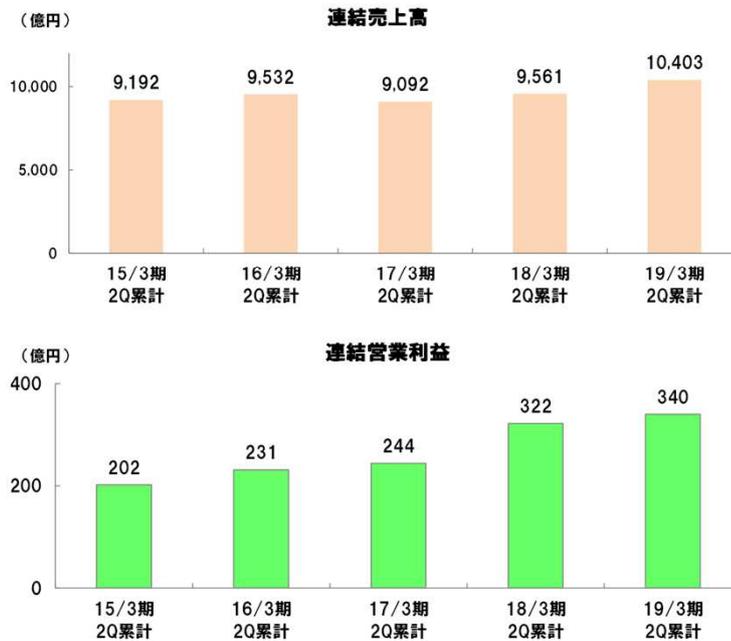
・6月の大阪北部地震に加え、7月の西日本豪雨、9月の台風21号および24号北海道胆振東部地震と、度重なる自然災害により、鉄道輸送を中心に物流業界としても大きな影響。

◇決算の評価

- ・荷動きや景気動向については、第2四半期も、第1四半期とほぼ同様に堅調。そうした荷動きを、確実に取り込む。
- ・災害はあったが、緊急輸送の対応など、当社の強みである総合力を最大限に生かして、お客様のサプライチェーンの確保に貢献したうえで、影響は最小限に。

# I. 経営状況

## B. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



### ◇売上高の推移

対前年で、842億円、8.8%増加。

- ・国際貨物を中心に、堅調な荷動きを背景に、お客様の動向を的確に捉え、売上高増加とともに、海外の各地域も取扱い伸長。
- ・警備輸送、重量品建設を除くすべてのセグメントで増収。

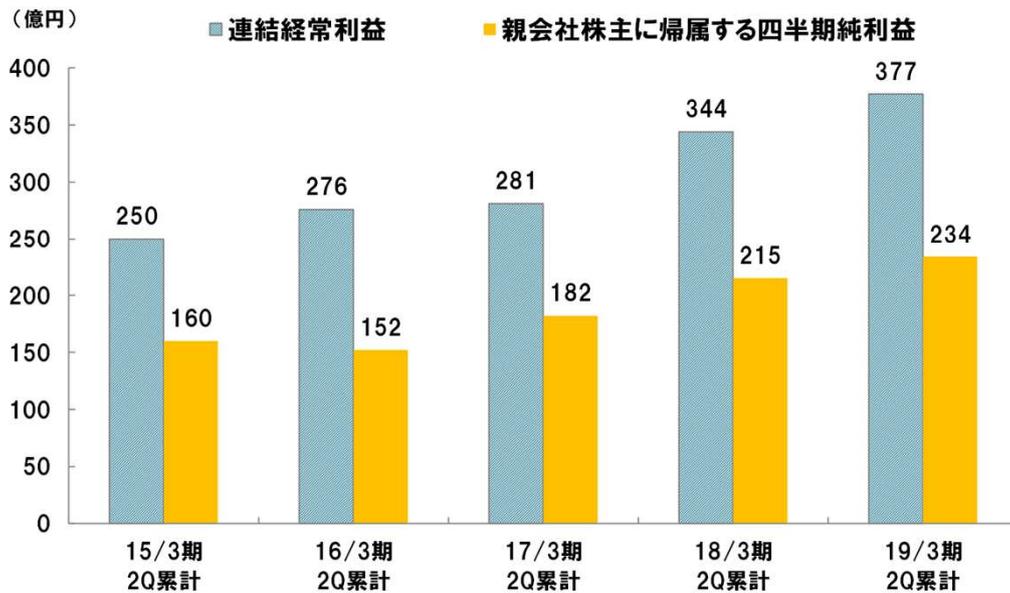
### ◇営業利益の推移

対前年で、17億円、5.6%増加。

- ・利用運送費や外注費の増加、燃油費の上昇に加え、自然災害の影響も受けたが、売上高の増加により、増益。

# I. 経営状況

## C. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益の推移



### ◇経常利益の推移

対前年で、33億円、9.6%の増益。

- ・営業外収益は、為替差益などにより、15億円増加。
- ・営業外費用は、前年と同水準。

### ◇四半期純利益の推移

対前年で、18億円、8.7%の増益。

- ・特別利益は、固定資産売却益などで、5億円増加。
- ・特別損失は、前年の固定資産処分損の計上などにより、1億円減少。

# I. 経営状況

## D. 財政状態

(単位：億円、%)

	2019/3期 第2四半期末	2018/3期末	増減額
総資産	15,302	15,170	132
自己資本	5,458	5,298	159
自己資本比率	35.7	34.9	-

## E. キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2019/3期 第2四半期累計期間	2018/3期 第2四半期累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー(A)	312	459	△147
投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	△599	△657	57
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	△287	△198	△89
財務活動によるキャッシュ・フロー	△57	△213	156
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,009	1,218	△208

(ご参考)	2019/3期 第2四半期末	2018/3期末	増減額 (前年度末比)
現金及び現金同等物の四半期末残高/期末残高	1,009	1,378	△369

### ◇財政状態

- ・総資産は、のれん等の無形固定資産の増加により、前年度末に比べ、132億円増加。

### ◇キャッシュ・フローの状況

- ・現金及び現金同等物の四半期末残高は、2018年3月末残高に比べ、369億円減少。
- ・主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式取得による支出の増加によるもの。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響 (2Q累計)	参考
燃油費単価変動による影響	+18.3億円 (費用増) ※2Q単四半期 +10.8億円 ※1Q単四半期 +7.5億円	1Qあたりの単価 (前年同期/前回予想) 軽油 : 104.71円 (86.12円/103.90円) ガソリン : 137.50円 (120.18円/135.50円) 船舶重油 : 55.28円 (41.24円/52.40円)
為替による影響	売上高 +26.3億円 営業利益 +1.0億円 ※2Q単四半期 売上高 +15.8億円 営業利益 +0.4億円 ※1Q単四半期 売上高 +10.4億円 営業利益 +0.5億円	年間平均為替レート (前年同期/前回予想) USD : 108.69円 (112.37円/109.60円) EUR : 131.64円 (121.64円/130.30円) HKD : 13.87円 (14.46円/13.90円) RMB : 17.09円 (16.39円/16.80円)

「年間平均為替レート」は、参考値。  
 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響 (2Q累計)	参考
のれん及び固定資産にかかる減損損失計上による影響	営業利益 + 15.1億円	日本 : + 12.5億円 南アジア・オセアニア : + 2.6億円
退職給付費用の減少	営業利益 + 6.8億円	日本 : + 5.4億円 警備輸送 : + 1.2億円 重量品建設 : + 0.1億円
その他の影響 (前年度特殊要素)	営業利益 △ 19億円 (※過年度の過払い 利用費戻し入れ)	日本 : △ 8億円 米州 : △ 11億円

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響 (2Q累計)	参考
災害による影響 (西日本豪雨、 台風21号、北海道 胆振東部地震)	売上高 △63.6億円 営業利益 △20.8億円	営業利益 日本 : △20.2億円 警備輸送 : △0.1億円 物流サポート : △0.4億円

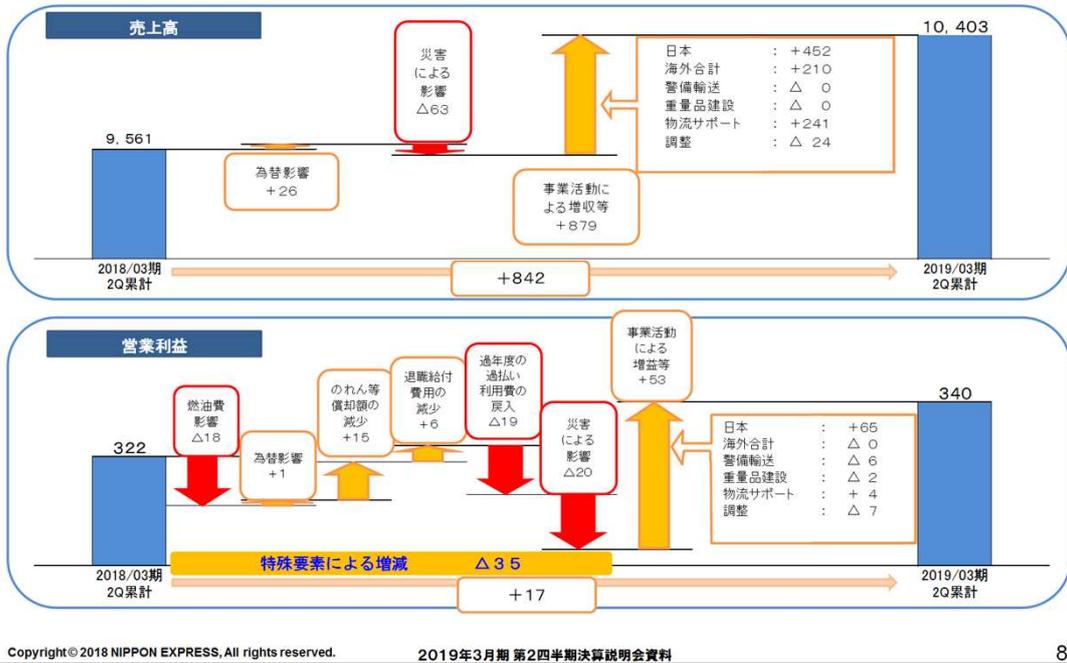
・代替輸送や緊急輸送などによる売上はあったが、鉄道からの切り替えなどにより、全国的にトラックの需給がひっ迫し、算出は難しいですが、間接的にも費用増加。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素



### B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳

(単位：億円)



Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2019年3月期 第2四半期決算説明会資料

8

#### ◇適正料金收受の取組み

- ・2Q累計で、55億円の収入増加効果、外注費の単価上昇の影響が、西日本豪雨の影響による備車費の急騰分を除き、46億円あり、増益効果は、9億円。

### Ⅲ. 2019年3月期 第2四半期業績分析

#### A. セグメント別状況



1) 日本 ※組織改正に伴い、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更したため、前年度の数値を変更後の数値に組み替えて比較しております。(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額
		19/3期	18/3期	増減額	増減率			
2Q累計	売上高	6,157	5,769	388	6.7	5,990	102.8	167
	セグメント利益	238	198	39	19.9	219	108.9	19
2Q単四半期	売上高	3,084	2,902	181	6.3	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	118	98	19	19.9	3.8 (3.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道輸送は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震などにより、大幅に運休本数増加</li> <li>・トラック輸送は、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調。西日本豪雨の影響による鉄道代替輸送も増収要因</li> <li>・航空は、輸出混載貨物の重量が、対前年で、プラス25.2%と増加。マーケットの伸び率を大きく超過</li> <li>・欧州地域向けの自動車関連部品やアジア向けの電子部品、半導体関連の輸出が、引き続き好調</li> </ul>						

2) 米州 (単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額
		19/3期	18/3期	増減額	増減率			
2Q累計	売上高	472	448	23	5.3	469	100.7	3
	セグメント利益	22	27	△4	△17.9	20	111.2	2
2Q単四半期	売上高	240	227	12	5.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	19	△5	△30.5	5.7 (8.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収・減益</li> <li>・自動車関連を中心に、航空輸出が堅調に推移。航空輸入、海運輸入、倉庫配送業務も取扱い増加</li> <li>・費用に関し、お客様への転嫁と効率化による抑制が貢献</li> <li>・前年にあった過年度の過払い利用費の戻し入れの反動11億円の減益分は、補えず</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容  
「海外会社」の第2四半期は、4-6月期

#### ◇日本・・・増収、増益

- ・鉄道輸送は、自動車関連部品の取扱いが堅調だったが、西日本豪雨や北海道胆振東部地震などの影響により、大幅に運休増加。
- ・トラック輸送は、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調に推移。加えて、西日本豪雨の影響による鉄道の代替輸送も増収の要因。
- ・海運は、機械関連の輸出やコンテナターミナル業務が伸長。加えて、内航海運における鉄道の代替輸送もあり、増収。
- ・航空は、輸出混載貨物の重量が、対前年で+25.2%と増加し、マーケットの伸びを大きく超過。欧州地域向けの自動車関連部品やアジア向けの電子部品、半導体関連の輸出が、引き続き好調に推移。
- ・日本発の輸出航空貨物の重量動向、当社シェアの推移については、補足資料1ページ参照。
- ・補足資料の2ページで、退職給付費用の減少とのれんの償却費の減少の影響額を含まない日本セグメント内の上期の営業利益の増減を、事業部門別にご案内。
- ・決算処理等を含まない参考数値ですが、事業部門ごとの傾向を示す資料として、ご参照。

#### ◇米州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

- ・自動車関連を中心に、航空輸出が堅調に推移。
- ・航空、海運輸入、倉庫配送業務もそれぞれ取扱い増加。
- ・昨年は増加傾向であった費用も、お客様への転嫁と効率化による抑制が貢献。
- ・前年にあった過年度の過払い利用費の戻し入れの反動で、11億円の減益要素があり、その分を補うには、至らず。

### Ⅲ. 2019年3月期 第2四半期業績分析



#### A. セグメント別状況

##### 3) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額		
		19/3期	18/3期				増減額	増減率
2Q累計	売上高	559	438	121	27.7	551	101.6	8
	セグメント利益	7	17	△10	△58.2	20	36.1	△12
2Q単四半期	売上高	274	223	51	22.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	1	9	△7	△82.3	0.6 (4.1)		
	概況	・現地通貨ベースにおいても、増収・減益 ・倉庫配送業務が堅調に推移 ・イタリアでの業務失注やスペインでの前年のスポット業務の反動により、航空輸出入の取扱い減少 ・1Qは、新規獲得の大型案件立ち上げの一時費用により苦戦した新規連結のトラコンフ社が、2Q累計で黒字。						

##### 4) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額		
		19/3期	18/3期				増減額	増減率
2Q累計	売上高	588	547	40	7.4	572	102.9	16
	セグメント利益	11	7	3	51.1	12	96.8	△0
2Q単四半期	売上高	304	279	25	9.0	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	7	3	4	111.7	2.5 (1.3)		
	概況	・現地通貨ベースにおいても、増収・増益 ・航空輸出、海運輸出が堅調に推移 ・航空利用費の高止まりは継続するもの、お客様への転嫁と効率化による費用の抑制が進み、利益面でも回復傾向						

#### ◇欧州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

- ・倉庫配送業務が堅調に推移。
- ・イタリアでの業務失注やスペインでの前年のスポット業務の反動により、航空輸出入の取扱い減少。
- ・本年3月に買収したトラコンフ社が連結に加わっており、1Qでは、新規に獲得した大型案件立ち上げの一時費用により、利益が出なかったが、2Qには、累計で黒字に。

#### ◇東アジア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

- ・航空、海運輸出が堅調に推移。
- ・航空利用費の高止まりは継続するものの、お客様への転嫁と効率化による費用抑制が進み、利益面でも回復傾向。

### Ⅲ. 2019年3月期 第2四半期業績分析

#### A. セグメント別状況

##### 5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額
		19/3期	18/3期	増減額	増減率			
2Q累計	売上高	444	395	49	12.5	423	105.1	21
	セグメント利益	19	16	2	18.4	18	107.4	1
2Q単四半期	売上高	226	201	25	12.6	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	8	2	24.7	4.7 (4.2)		
	概況	・現地通貨ベースにおいても、増収・増益 ・引き続き、航空輸出で、自動車関連や電子部品、医薬品等が堅調に推移 ・倉庫配送業務でも取扱い伸長 ・利用費や外注費の高止まりが継続						

##### 6) 警備輸送

※組織改正に伴い、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更したため、前年度の数値を変更後の数値に組み替えて比較しております。

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額
		19/3期	18/3期	増減額	増減率			
2Q累計	売上高	359	360	△0	△0.1	362	99.4	△2
	セグメント利益	2	10	△7	△72.7	5	58.5	△2
2Q単四半期	売上高	179	179	△0	△0.3	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	△0	4	△4	△107.6	△0.2 (2.3)		
	概況	・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みが進んだが、輸送業務の減少と人件費や燃油費の上昇により、減収・減益						

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、増益。

- ・航空輸出で、自動車関連や電子部品、医薬品等が堅調に推移。
- ・倉庫配送業務でも取扱いを伸ばしたが、利用費や外注費の高止まりも継続。

#### ◇警備輸送・・・減収、減益

・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みが進んだが、輸送業務の減少と人件費や燃油費の上昇により、減収・減益。

### Ⅲ. 2019年3月期 第2四半期業績分析

#### A. セグメント別状況

##### 7) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額	
		19/3期	18/3期	増減額				増減率
2Q累計	売上高	248	248	Δ0	Δ0.0	243	102.3	5
	セグメント利益	20	23	Δ2	Δ10.9	20	104.4	0
2Q単四半期	売上高	124	125	Δ1	Δ0.9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	13	Δ3	Δ25.6	8.2 (10.9)		
	概況	・前年にあった海外の大型プラント工事の反動						

##### 8) 物流サポート

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			2Q累計予想 (4月27日発表)	達成率	差額	
		19/3期	18/3期	増減額				増減率
2Q累計	売上高	2,285	2,042	242	11.9	2,224	102.8	61
	セグメント利益	57	53	4	8.2	56	102.9	1
2Q単四半期	売上高	1,170	1,035	135	13.1	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	30	28	2	8.4	2.6 (2.7)		
	概況	・日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上が増加 ・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も、堅調に推移						

(日通商事、日通キャピタル、日通不動産ほか)

#### ◇重量品建設・・・減収、減益

- ・前年にあった海外の大型プラント工事の反動減によるもの。

#### ◇物流サポート・・・増収、増益

- ・日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上が増加したほか、輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も堅調に推移。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### A. 連結業績予想（修正後）

（単位：億円、％）

	2019/3期 上期実績	2019/3期 下期予想	前年同期対比		通期予想 (18/10/31発表)	前年対比		前回通期予想対比 (18/4/27発表)	
			2018/3期 下期実績	増減額 (増減率)		2018/3期 通期実績	増減額 (増減率)	通期予想	増減額 (増減率)
売上高	10,403	10,696	10,391	304 (2.9)	21,100	19,953	1,146 (5.7)	20,800	300 (1.4)
営業利益	340	429	380	49 (13.0)	770	702	67 (9.6)	770	-
経常利益	377	432	399	32 (8.3)	810	743	66 (8.9)	810	-
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	234	215	△150	365 (-)	450	65	384 (588.7)	450	-

（億円未満切捨て）

#### ◇経営環境の想定

- ・国内経済は、引き続き、堅調と想定するが、農産物に災害の影響が残る北海道エリアや、JR山陽線の復旧後も一部で運休が続く鉄道輸送など、地域ごと、部門ごとにばらつき。
- ・世界経済は、米中の貿易摩擦問題や中東情勢など、不確実性が増大。
- ・売上高は、上期の実績を通期に反映し、300億円上方修正。
- ・下期予想は、従来予想をほぼ据え置き。
- ・営業利益は、上期には、対予想で10億円のプラスとなったが、通期では、従来予想を据え置き。
- ・下期は、燃油費の上昇などを織り込み、期首予想から10億円のマイナス。
- ・災害の影響は、下期にも一部では残るが、一過性。
- ・欧州の下振れも、業務失注や前年のスポットの反動が主要因。足元の景気や荷動きは、おおむね堅調。
- ・当面の懸念材料は、燃油費、外注費など費用の高騰と、米中の貿易摩擦問題など、世界的な景気の不透明感。
- ・費用の高騰部分は、適正料金の収受とともに、お客様と協働の物流改善、業務改善で、ウィンーウィンの関係を。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況（修正後）

（単位：億円、％）

項目	2019/3期 上期実績	2019/3期 下期予想	前年同期対比		通期予想 (18/10/31発表)	前年対比		前回通期予想対比 (18/4/27発表)		
			2018/3期 下期実績	増減額		2018/3期 通期実績	増減額	通期予想	増減額	
日本	売上高	6,157	6,236	6,117	118	12,394	11,886	507	12,245	149
	営業利益	238	287	257	31	527	455	71	516	11
	利益率	3.9	4.6	4.2		4.3	3.8		4.2	
	見通し概況	・航空輸出フォーワーディングが、引き続き、アジア向けを中心に堅調に推移する見込み ・燃油費や外注費の上昇が予想され、お客様への転嫁、作業の効率化を図るが、燃油費の上昇が、期首予想を大幅に超過するため、利益予想にも反映								
米州	売上高	472	523	465	58	996	913	82	954	42
	営業利益	22	26	17	8	49	44	4	43	6
	利益率	4.7	5.1	3.8		4.9	4.9		4.5	
	見通し概況	・自動車関連の取扱いが、引き続き堅調に推移する見通し ・海運輸出入・倉庫配送の荷動きが継続し、前年の特殊要因11億円のマイナス影響を消化し、増益見込み								
欧州	売上高	559	562	522	39	1,122	960	161	1,124	△2
	営業利益	7	18	24	△5	26	41	△15	46	△20
	利益率	1.3	3.3	4.6		2.3	4.3		4.1	
	見通し概況	・地域全体で、倉庫配送業務が順調に売上伸長見通し ・非日系企業への営業強化も着実に進むが、失注した業務の再獲得や新規業務獲得による補完には、時間を要する見込み								

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2019年3月期 第2四半期決算説明会資料

14

#### ◇日本・・・増収、増益

・航空輸出フォーワーディングが、引き続き、アジア向けを中心に堅調に推移する見込み。

・地域特性に適應した事業展開および、ワンストップ営業・アカウントマネジメントのさらなる拡大、深化による営業強化を推進。

・燃油費や外注費の上昇が予想され、適正料金の収受、作業の効率化を図るが、燃油費の上昇は、期首予想を大きく上回るため、利益予想にも反映。

#### ◇米州・・・増収、増益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

・自動車関連の取扱いが、引き続き堅調に推移する見通し。

・海運輸出入、倉庫配送業務の荷動きが継続し、前年の特殊要因11億円のマイナス影響を消化し、増益見込み。

#### ◇欧州・・・増収、減益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

・地域全体で、倉庫配送業務が順調に売上げを伸ばし、非日系企業への営業強化も着実に進展するが、失注した業務の再獲得や新規業務獲得による補完には、時間を要する見込み。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況（修正後）

（単位：億円、％）

項目	2019/3期 上期実績	2019/3期 下期予想	前年同期対比		通期予想 (18/10/31発表)	前年対比		前回通期予想対比 (18/4/27発表)		
			2018/3期 下期実績	増減額		2018/3期 通期実績	増減額	通期予想	増減額	
東アジア	売上高	588	641	627	14	1,230	1,174	55	1,213	17
	営業利益	11	17	10	6	29	18	10	28	1
	利益率	2.0	2.7	1.7		2.4	1.6		2.3	
	見通し概況	・中国における自動車関連の取扱いが、引き続き堅調に推移、航空・海運フォーワーディングが回復見通し ・航空利用費の高騰は継続するが、お客様への転嫁と混載効率の改善見込み								
南アジア・オセアニア	売上高	444	471	458	12	916	853	62	900	16
	営業利益	19	17	17	0	37	33	3	37	-
	利益率	4.3	3.7	3.8		4.0	4.0		4.1	
	見通し概況	・地域全体で、倉庫配送業務が堅調に推移、航空・海運の輸出入フォーワーディングも、荷動きの継続見込み ・引き続き、アジア発着、アジア域内での物流拡大を図るべく、拠点の拡充等、継続的に投資								
警備輸送	売上高	359	366	359	6	726	720	5	739	△13
	営業利益	2	8	10	△2	11	21	△10	15	△4
	利益率	0.8	2.2	3.0		1.5	3.0		2.0	
	見通し概況	・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの構築を図り、地方金融機関をターゲットに、アウトソーシングの獲得に取り組むが、人件費等の増加の影響見込み								

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2019年3月期 第2四半期決算説明会資料

15

#### ◇東アジア・・・増収、増益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

・中国における自動車関連の取扱いが、引き続き堅調に推移し、航空、海運フォーワーディングが回復する見通し。

・航空利用費の高騰は継続するが、お客様への転嫁と混載効率の改善見込み。

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

・地域全体で、倉庫配送業務が堅調に推移し、航空、海運の輸出入フォーワーディングも、荷動きの継続見込み。

・アジア発着、アジア域内での物流拡大を図るべく、拠点の拡充等、投資を継続。

#### ◇警備輸送・・・増収、減益

・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの構築を図り、地方金融機関をターゲットに、アウトソーシングの獲得に努めるが、人件費等の増加の影響見込み。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

(単位：億円、%)

項目	2019/3期 上期実績	2019/3期 下期予想	前年同期対比		通期予想 (18/10/31発表)	前年対比		前回通期予想対比 (18/4/27発表)		
			2018/3期 下期実績	増減額		2018/3期 通期実績	増減額	通期予想	増減額	
重量品建設	売上高	248	212	227	△14	461	476	△15	458	3
	営業利益	20	16	17	△1	37	40	△3	36	1
	利益率	8.4	7.6	7.6		8.0	8.5		7.9	
	見通し概況	・前年上期に集中したシャットダウンメンテナンス業務が減少するほか、海外における大型プロジェクトが、前年ほど見込めず								
物流サポート	売上高	2,285	2,481	2,389	91	4,767	4,432	334	4,654	113
	営業利益	57	60	63	△3	118	117	0	118	-
	利益率	2.5	2.4	2.7		2.5	2.6		2.5	
	見通し概況	・日通商事におけるロジスティクス・サポート事業での梱包業務が堅調に推移する見込み。								

※警備輸送事業に関わる組織改正の実施にあわせて、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更いたしました。これに伴い、本見通しについては、前年度の数値をセグメント変更後の数値に組み替えて比較しております。(変更セグメント:日本、警備輸送)

#### ◇重量品建設・・・減収、減益

・前年上期に集中したシャットダウンメンテナンス業務が減少するほか、海外における大型プロジェクトが、前年ほど見込めず。

#### ◇物流サポート・・・増収、増益

・日通商事におけるロジスティクス・サポート事業で、梱包業務が堅調に推移する見込み。

## IV. 2019年3月期の業績予想

### C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
燃油費単価変動 による影響	+35.4億円 (費用増) 下期 +17.0億円 上期 +18.3億円	(前期年間平均) 軽油 : 109.20円/ℓ (90.66円) ガソリン : 138.68円/ℓ (124.38円) 船舶重油 : 55.93円/ℓ (44.29円)
為替による影響	売上高 + 3.7億円 下期 Δ22.5億円 上期 +26.3億円  営業利益 + 0.2億円 下期 Δ0.7億円 上期 +1.0億円	(前期年間平均) USD : 110.60円 (112.19円) EUR : 131.00円 (126.67円) HKD : 14.10円 (14.40円) RMB : 17.10円 (16.63円)  「年間為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。

## IV. 2019年3月期の業績予想

### C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
のれん及び固定資産にかかる減損損失計上による影響	営業利益 + 30 億円	日本 : + 25 億円 南アジア・オセアニア : + 5 億円
退職給付費用の減少	営業利益 + 13.6 億円	日本 : + 10.9 億円 警備輸送 : + 2.4 億円 重量品建設 : + 0.3 億円
その他の影響 (前年度特殊要素)	営業利益 △ 19 億円 (※過年度の過払い 利用費戻し入れ)	日本 : △ 8 億円 (1Q) 米州 : △ 11 億円 (2Q)

## IV. 2019年3月期の業績予想

### C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

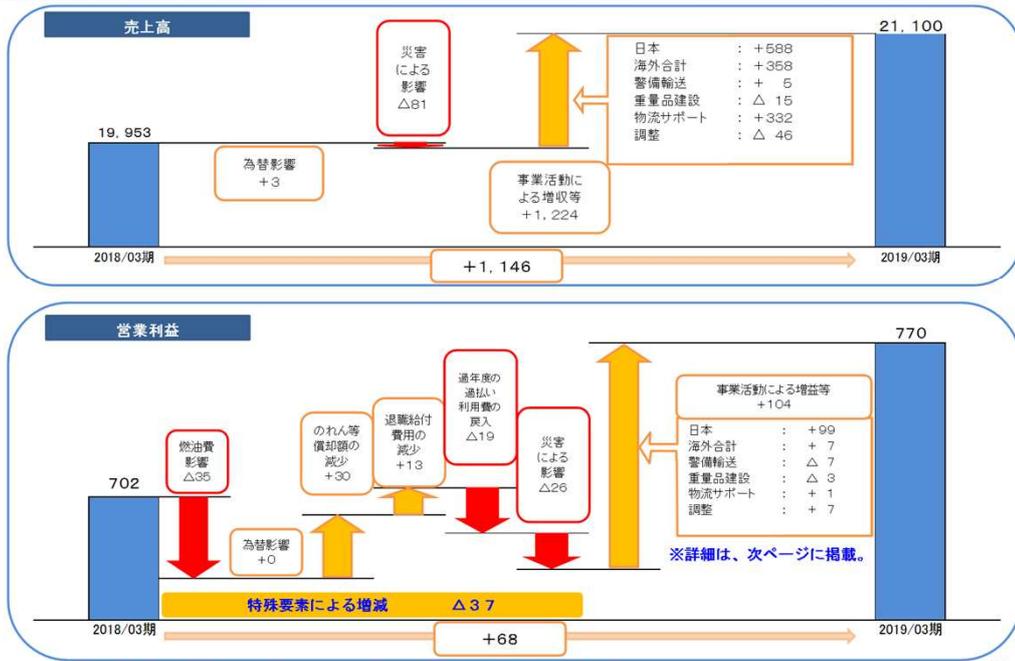
変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	参考
災害による影響 (西日本豪雨、 台風21号、北海道 胆振東部地震)	売上高	営業利益
	△81.5億円	日本 : △26.1億円
	下期 △17.8億円	警備輸送 : △0.1億円
	上期 △63.6億円	物流サポート : △0.4億円
	営業利益	
	△26.7億円	
	下期 △5.9億円	
	上期 △20.8億円	

# IV. 2019年3月期の業績予想



## D. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳（予想）

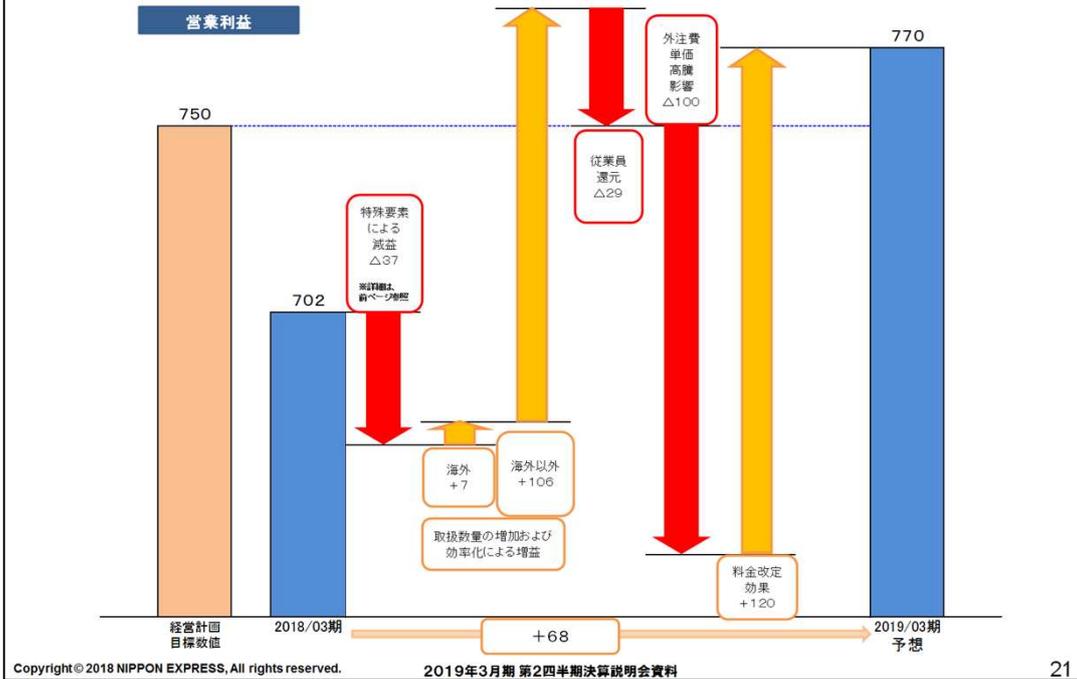
（単位：億円）



## IV. 2019年3月期の業績予想

### E. 2019年3月期 予想数値の考え方

(単位：億円)



#### ◇適正料金收受の取組み

- ・年間累計で、120億円の増収効果、20億円の増益効果見込み。

(災害の影響によるスポットの備車費の急騰は含まず。レギュラー業務について、お客様との契約単価の上昇分と業者への支払単価の上昇分から算出。)

## V. 経営計画の進捗状況

### A. 日通グループ経営計画2018 -新・世界日通。-

国内(日本)事業の収益性を更に向上させ、真のグローバルロジスティクス企業となるべく、注力する事業領域と成長地域へのBtoBに特化した集中投資を着実に実行する。



## V. 経営計画の進捗状況

### B. 重点戦略の進捗状況

重点戦略	項目	進捗状況	
エリア戦略	日本 「成長性」と「収益性」 の両立	地域特性に適応した事業展開	・ビル大手4社の関西・中国―九州間の共同モーダルシフトをサポート ・「中部空港物流センター新棟」を開設
		国内事業の強化と新規事業軸の構築	・北関東インランドデポの運用開始
	海外 日通グループの成長 を牽引	米州、欧州、東アジアでの収益性向上	・「パナマ支店」を開設
		南アジア・オセアニアにおける成長	・「ラオス支店」を開設 ・タイに「アマタシティジョンプロロジスティクスセンター」を開設 ・インドネシアで、ハラル製品の一貫輸送体制を確立
	重量品建設事業のグローバル展開	・NEX グローバルエンジニアリング、インドネシアに駐在員事務所を開設	
機能戦略	グループ経営の強化	グループ経営資源の最適配置	・「グループCREマネジメント部」を設置
		日通グループの企業価値向上に資するM&A	・「Traconf S.r.l.」の子会社化
	コア事業の強化と 高度化	イントラアジア圏におけるネットワーク拡充	・「GMS越境交通許可証」を取得 ・「Don Mueang Midnight Express」を新設
		アジア発着トラフィックの取扱い拡大	・「重慶SEA & RAILサービス」を新設 ・「NEXSAO-AIR SAT INDIA(SEA & AIR)」を新設 ・「Eurasia Train Direct(Sea & Rail)」、「Eurasia Train Direct(Air & Rail)」を新設

**We Find the Way**



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。